

<第2弾> Press Release より抜粋

クルマを超えて、クルマを楽しむ。
 Classic Meets Modern and Future
AUTOMOBILE COUNCIL 2024
主催者テーマ展示

「アイルトン・セナ没後 30 年 特別企画 駆け抜けた天才の記憶」

AUTOMOBILE COUNCIL 実行委員会

4月12日(金)から14日(日)の3日間、千葉県千葉市・幕張メッセで開催する「AUTOMOBILE COUNCIL 2024」の主催者テーマ展示「アイルトン・セナ没後 30 年 特別企画 駆け抜けた天才の記憶」。



日本では「音速の貴公子」と呼ばれたアイルトン・セナ。その彼が、イモラでのレース中の不可解なクラッシュで還らぬ人となって、30年が経過しました。あまりにも早く夭折した不世出の天才F1ドライバーの輝かしい功績を講え、長く記憶にとどめるために、AUTOMOBILE COUNCIL 2024会場に彼が操った3台のF1マシンを展示します。

●1985 JPS ロータス 97T ルノー

1985年、F1デビュー2年目のシーズンのセナに初優勝をもたらしたマシン。第2戦ポルトガルGPで自身初のポールポジションを獲得。雨の決勝でも他を寄せつけず、3位以下を周回遅れにする圧倒的勝利を達成。また、やはりウェットコンディションとなった第13戦ベルギーGPでも予選2位からスタートし、独走で2勝目を挙げた。「雨のセナ」の異名を最初にもたらしたのがこのロータス 97T ルノーである。



●1990 マールボロ・マクラーレン MP4/5B ホンダ



前年日本GP終盤、一触即発の状態になっていたプロストとセナが、鈴鹿のシケインでまさかの同士討ち。セナが失格となり結果的にプロストがシリーズチャンピオンの座に着くという後味の悪い結果に終わったF1。その翌シーズンは、プロストがフェラーリに移籍して、セナ対プロストの図式はマクラーレンMP4/5B・ホンダ対フェラーリ641の対決にもなった。そして、この年の日本GPでもスタート直後のセナとプロストが接触コースアウト。この時点でセナにとって2度目のワールドチャンピオンが決まるという幕切れをもたらした。

●1991 マールボロ マクラーレン MP4/6 ホンダ



セナに最後のワールドタイトルをもたらしたのがマクラーレンMP4/6ホンダだった。MP4/4のV6ターボ、MP4/5シリーズのV10に対し、MP4/6ではV12を搭載。3.5ℓから735ps以上を発揮したという。第2戦ブラジルGPでは終盤にギアボックストラブルに見舞われたものの、6速のみで走行。見事母国グランプリで初優勝を遂げた。これを聞きつけたフェラーリが果たしてそんなことが可能なのか検証したが、マラネッロのエンジンでは無理だったというのは有名な話し。それだけセナの操縦テクニックが秀でるうえに、ホンダV12の特性がフレキシビリティに

富んでいたということだ。

※展示車両は、予告なく変更になる場合があります。
 ※写真©標記 [©CG ライブラリー]